

発表テーマ：分析までの経過時間が定量におよぼす影響

発表者氏名：高垣さとし 技術分野：質量分析 発表形式：ポスター発表

所 属：名古屋市立大学共用機器センター

共同発表者氏名：

前田康博（藤田医科大学オープンファシリティセンター）

概要

名古屋市立大学では受託解析事業でトリプル四重極質量分析計(MS/MS)を利用したメタボライト定量解析を行っている。着実に依頼件数が増えるとともに多検体を取り扱うことが増えてきているため、本稿では一次代謝物メソッドパッケージ（水溶性化合物）と胆汁酸メソッドパッケージ（脂溶性化合物）（株式会社島津製作所）を用いて分析をするにあたり、オートサンプラーに投入して分析するまでの時間経過による影響を確認した。

水溶性化合物用、脂溶性化合物用をそれぞれコントロール血清から前処理しサンプルを準備した。サンプルをオートサンプラー（4℃）に投入後、それぞれ 0～48 時間の間で 4 時間毎に LC-MS/MS に導入し分析した。内部標準法で解析し、対象とする化合物は一定量以上の強度があるものに絞り検討した。

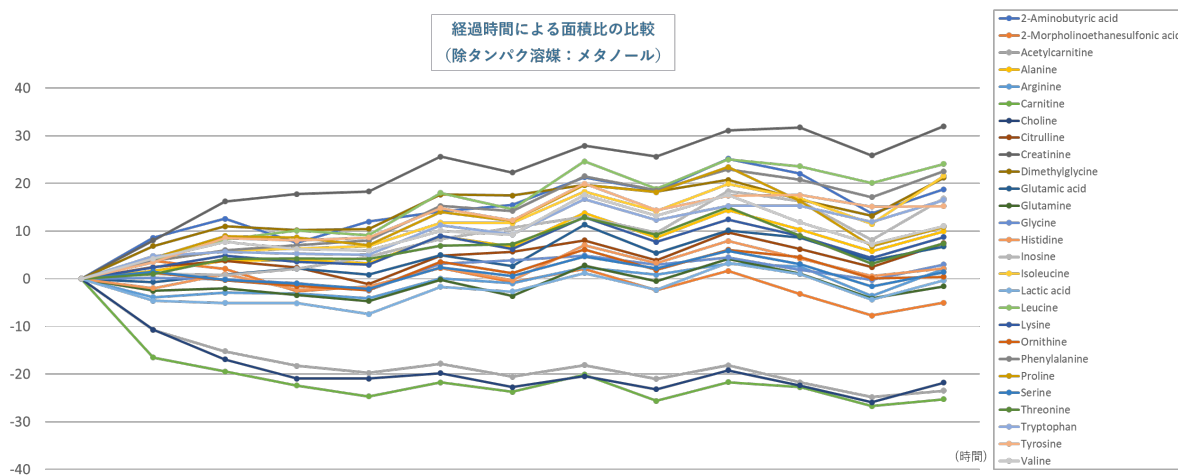


図 1. 経過時間による面積比の比較（一次代謝物メソッドパッケージ）